

赤ちゃんの特徴

私たち一人ひとりが違うように、赤ちゃんもそれぞれに個性があり、成長スピードもそれぞれです。成長に関するさまざまな情報を知っておくことも大事ですが、情報だけにとらわれ過ぎないようにしましょう。赤ちゃんとの時間は、そのときだけのものです。その瞬間を楽しみながら、大切に過ごしましょう。

0～2か月

産声から始まり、生まれて初めてのことでばかりの赤ちゃんは、すべてを泣くことで伝えようとします。この時期の「泣き」は、お腹がすいていたり、おむつが濡れていたり、疲れたり、飽きてしまったり・・・全てが赤ちゃんからのメッセージです。泣くのもピークとなります。訳もなく泣いてしまうこともあり、泣きやまないからといって自分をせめたりしないようにしましょう。



子育て
カレンダー

妊娠が
わかっ
たら

産後の
体と
心の
健康

お父
さん
の
子育
て

赤
ちゃ
んが
生
ま
れ
た
ら

赤
ちゃ
ん
の
特
徴

子
ど
も
の
健
康

就
園・
就
学

子育
て支
援

おで
かけ

災
害に
備
え
て

相
談
窓
口

3か月～

3か月ごろには、相手を見分けることができるようになります。顔をじっと見つめたり、声のするほうを向くなど、周囲に関心を示します。4か月ごろになると、お母さんやお父さんの顔はしっかりわかるようになるので、話しかけるなどコミュニケーションをとってみましょう。



6か月～

寝返りをする、体を乗り出す、しがみつくなど、お母さんやお父さんに近づこうとするようになります。しっかりと受け止めてあげましょう。お母さんやお父さんが気持ちにゆとりをもって、赤ちゃんといることを楽しめるといいですね。離乳食もはじまるので、赤ちゃんの生活リズムをととのえていきましょう。



8か月～

お座り、ハイハイができるようになってきます。初めての場所で不安そうにしたり、人見知りをしたりすることもあります。成長の上で大事な発達のひとつです。周囲の状況を判断できていないときは、信頼できるお母さんやお父さんの反応を頼りにします。泣いてしまったら、抱きしめて安心させてあげてください。動きが多くなる時期なので、危険なものや小さいものは片づけるようにしましょう。



1歳半～

1歳を過ぎると、意味を持った単語を発するようになります。表現する力がまだ追いついていないので、ゆっくりと最後まで聴いてあげることが大切です。聴いて言葉を覚えていく時期になるので、耳を傾けて会話を楽しみましょう。また、自我が芽生える時期です。やりたいということを温かく見守りましょう。



乳幼児揺さぶられ症候群を予防しましょう

乳幼児揺さぶられ症候群とは、赤ちゃんが全身を激しく揺さぶられることで脳のまわりの血管や脳の神経が引きちぎられてしまうことです。赤ちゃんの頭は体に比べて大きく、揺さぶられることで脳自体や脳神経・眼の網膜などが傷つき、重い障がいが残ったり、命にかかります。なだめても泣きやまないなどでストレスを感じたら赤ちゃんから少し離れて、気持ちを落ち着かせることが大切です。無理に泣きやませようとせず、決して激しく揺さぶらないようにしてください。

